

「ハーバード大学外科教授河合達郎先生(54回生)がMGHに開設された世界初の臨床免疫寛容センター所長に就任！」

板橋中央総合病院副病院長・
イムスグループ小児科統括本部長

高橋 昌 里



このところ日本大学関連のニュースと言えば目を覆いたくなるようなものばかりでした。しかし先日、日本大学そして医学部にとって素晴らしいニュースが飛び込んでまいりましたのでご紹介いたします。

医学部OB(54回生)でハーバード大学外科教授である河合達郎先生が、世界で初めてマサチューセッツ総合病院(MGH)に開設された臨床移植免疫寛容センターの所長に就任されたことです。本年8月にMGHのホームページに掲載された紹介記事を簡単にまとめましたのでご紹介いたします。(https://www.massgeneral.org/news/press-release/massachusetts-general-hospital-legorreta-center-for-clinical-transplant-tolerance)。

「マサチューセッツ総合病院(MGH)の臨床移植免疫寛容センター(Legorreta Center for

MGを取得、卒業後すぐに当時腎移植を推進して

いた東京女子医大の腎センター外科に入局しました。その後移植免疫寛容の研究でMGHに3年間留学し一旦帰国しまし

た。しかしMGHのボスに呼び戻され今度は不返転の決意で渡米、米国の臨床医資格も取得して移植医療の臨床および基礎研究を並行して推進されました。そしてその研究業績はNEJM&Natureをはじめとする超一流誌に数多く掲載されています。また深刻な移植臓器不足を解決するため遺伝子編集技術を駆使した先端的異種間臓器移植研究を推進し、すでにプタからサルへの腎移植の長期間生着も成功させています。河合先生は母校の動向をいつも気にかけて下さり、これまでもハーバード大学医学部若手講師の日大医学部への派遣、ハーバード大学医学部のクリニカルクラークシップコースへの日大医学部学生の参加、また日大小児科医師のハーバードへの留学などを実現させて頂いています。

河合達郎先生はMGHに開設された世界初の研究所の所長として益々活躍されるものと思えます。同窓の一人として大いに期待し誇りに思う気持ちを、医学部同窓新聞を介して皆様と共有したいと考えご紹介させていただきます。

(50回生)